

令和5年度

鹿児島県N I E実践報告書



鹿児島県N I E推進協議会

目 次

• N I E 実践報告	鹿屋市立笠野原小学校……	2
• N I E 実践報告	いちき串木野市立荒川小学校……	6
• N I E 実践報告	鹿児島市立向陽小学校……	1 0
• N I E 実践報告	志布志市立志布志小学校……	1 4
• N I E 実践報告	さつま町立鶴田小学校……	1 8
• N I E 実践報告	薩摩川内市立平成中学校……	2 2
• N I E 実践報告	始良市立山田中学校……	2 6
• N I E 実践報告	奄美市立朝日中学校……	3 0
• N I E 実践報告	れいめい中学校・高等学校……	3 4
• N I E 実践報告	鹿児島県立錦江湾高校……	3 8
• N I E 実践報告	鹿児島県立野田女子高校……	4 2
• N I E 実践報告	鹿児島県立大島高校……	4 6
• N I E 実践報告	鹿児島県立鹿児島聾学校……	5 0
• 鹿児島県N I E 推進協議会会則		…… 5 6

鹿屋市立笠野原小学校 令和5年度のNIE取組について

1 本校 NIE 教育の目標

「新聞を読み取り、情報を生かす力・社会とつながる力を育てる」

2 各学年の努力点

低学年	中学年	高学年
○ 新聞がどのような紙面になっているのかを見る。 ○ 各種活動において子ども新聞の写真や図を使うことで新聞に親しむ。	○ 調べ学習や文章に表すための資料として新聞を使うことで、表現力を育てる。 ○ 教科で調べたことを新聞形式にまとめることにより構成力を身に付ける。	○ 記事の読み比べや友達との意見交流を通して、思考力・判断力を身に付ける。 ○ 新聞をもとにした発表資料を作り、構成力・判断力を身に付ける。

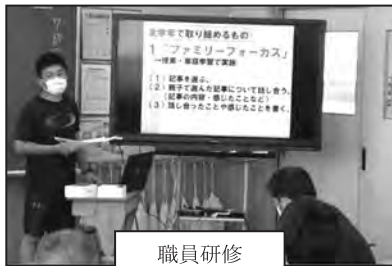
3 学校全体での取組

(1) 年度初めの共通理解・職員研修

年度初めに教育課程をもとに全体計画を確認した。担当がこれまでの実践例を紹介し、各学年で実践する内容を設定した。夏季休業の職員研修で、NIEの目的や実践の進め方を確認した。

(2) NIE コーナーの設置

教室前ろうか掲示板と校長室前掲示板と図書室に設置。「オセモコ」「紹介記事」「新聞に掲載された児童の作品」等を掲示した。休み時間や給食の片付けの時などに、児童が友達と一緒に記事を読んでいる。



職員研修



実践事例の確認



校長室・教室前の掲示

(3) 委員会活動での取組

ア 放送委員会

南日本新聞の記事や「オセモコ」の中から自分が興味をもった記事を選び、給食時間の校内放送で記事の音読と感想の発表を行った。

イ 給食委員会

食に関する記事を読んで啓発資料を作成し、給食室前に掲示した。

ウ 広報委員会

ファミリーフォーカスを行い、校長室前 NIE コーナーに掲示した。



【放送委員会】新聞記事選び⇒給食時間の放送



【新聞コーナー】
新聞記事の読み比べ



【広報委員会】
ファミリーフォーカス

(4) ファミリーフォーカス

週末の課題等でファミリーフォーカスを実施した。書いたものは廊下に掲示して、クラスの友達がいつでも見ることができるようにした。

(5) 担任による新聞記事紹介

定期購読している新聞を計画的に各学級に配布し、担任が朝の会等で記事紹介を行った。

(6) コンクールへの参加

4年生以上は、夏休みに「よむのびコンクール」に取り組み、4年生から6年生までで合計180点を出品した。今年度は肝属地区学校賞を受賞した。

4 各学年の授業実践

年度初めに全職員で実践例を確認し、各学年において授業を通したN I E実践に取り組んだ。



【5年】	
教科	実践内容
総合	「今日のヒーロー」 ・新聞からヒーローを見つけ、記事の内容や感想を書かせる。
国語	「和語・漢語・外来語」 ・新聞の中から「和語・漢語・外来語」を見つけ、どのような状況で使われているかを考える。
国語	同じ日の各社の新聞記事を読み比べる。 見出しを隠した新聞記事を読み、ふざかしい見出しを考える。
【6年】	
教科	実践内容
朝の会 朝の会	・気になる記事を選び、目直がスピーチする。 ・新聞を読んでクイズを作り、目直が1日3問出題する。
国語	「自分の考えを明確に伝えよう」 ・「ひろば欄」の投稿作品を用いて、事実と意見の分量の違い、文法表現に気付かせる。
国語	「熟語の成り立ち」 ・新聞の中で使われている熟語を見つける。
国語	「学級討論会をしよう」 ・新聞から議題を決めて、学級討論会をする。
体育	「体の使い方を知ろう」 ・スポーツ選手の写真を見て、正しい体の使い方を発見する。 (野球選手が投げるところ、走り幅跳び、フットボールなど)



〈各学年担任に配布した実践例〉(5・6年)

授業実践 1年 国語科

- ☐ 単元 「新聞から かたかなを見つけよう」
- ☐ 目標 片仮名を探して読み、書くとともに、文や文章の中で使っていくことができる。
- ☐ 事前
 - ・新聞を、一緒に読んだり聞いたりして、活動に意欲をもたせる。
 - ・オセモコやテレビ番組欄等から、片仮名を見つけることを知る。
- ☐ 本時の流れ
 - (1) オセモコやテレビ番組欄を紹介する。
 - (2) 片仮名で書かれた言葉を探して、ワークシートやノートに書き出し、写真を撮る。
 - (3) 見つけた言葉について、友達と交流する。
 - (4) 見つけた言葉を発表し、言葉の区切り方や使い方を確かめる。
 - (5) 感想を発表する。
- ☐ 事後
 - ・身近な物(新聞を含む)から、片仮名を探し、読んだり書いたりする。
 - ・ものの名前を聞いたときには、片仮名で表記するのか、平仮名で表記するのかについて判断させる。
- ☐ 成果と課題
 - 新聞に興味を示して、意欲的に、集中して取り組んでいた。(子どものつぶやきあり)
 - 友達といろいろ教え合いながら、ペア学習で交流することができた。
 - たくさんの片仮名の言葉を見つけ、語彙を増やすことができた。
 - ▲ 文字数が多いので、紙面の読み方に慣れていない児童が多く、言葉の区切りが分からないようだった。区切り方や使い方を確かめる時間が、必要である。
 - ▲ 文脈から漢字なのか、片仮名なのか区別することが難しい様子も見られた。

授業実践 2年 生活科

- ☐ 単元 図書かんをたんけんしよう
- ☐ 目標 地域の公共施設である図書館を調べたり、見学したりすることを通して、まちな多くの人が利用することや、それを支える人たちがいることに気づき、自分たちも使ってみようという意欲を高められるようにする。
- ☐ 学習の流れ
 - (1) 図書館で調べたいことや質問を考える。
 - (2) 図書館で、実際に調べたり質問したりする。
 - (3) 新聞を広げ、レイアウトなど新聞の書き方を調べる。
 - (4) 図書館を探検して分かったことや気付いたことを、新聞にまとめる。
 - (5) 新聞を、友だちと交換して読み合う。
- ☐ 成果と課題
 - 新聞に興味をもち、新聞を広げる子が出てきた。
 - 新聞にまとめる活動を楽しみ、意欲的に活動していた。
 - ▲ 漢字や言葉の意味が分からないことで、新聞に興味を示さない子もいた。
 - ▲ まとめることが難しいと感じる子がいた。

授業実践 3年 国語科

- 単元 ポスターを読もう
- 目標 ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
・比較や分類のしかたを理解し使うことができる。
- 事前 子ども新聞を読む。
- 本時の流れ（2／2時間目）
 - (1) 2枚のポスターを比べ、どちらのポスターの方がお祭りに行きたくなるか考える。
 - (2) 本時のめあてを確認する。
 - (3) どちらのポスターの方がお祭りに行きたくなるか、理由を友達と話す。
 - (4) 2枚のポスターを比べて、気づいたことを整理する。
 - (5) ポスターに違いが生まれる理由について話し合う。
 - (6) 単元の学習を振り返る。
- 事後 学んだことを総合的な学習の時間の新聞作りや新聞の読み比べに活用する。
- 成果と課題
 - 2つのねらいの違うポスターを比較することで、ポスターなどを作成するときの言葉や文字、イラストの配置など様々な工夫の仕方を学び、新聞作りなどに生かした。
 - ▲ 目的や対象によって工夫することが難しい児童がいた。

授業実践 4年 国語科

- 単元 「アップとルーズで伝える」(写真の使い方)
- 目標 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう
- 事前 ・教材をもとに、「アップやルーズ」などについて学習する。
・目的に応じてアップやルーズが使い分けられていることを知る。
・実際の新聞からアップやルーズの写真を見つけ、何を伝えたいのか考える。

□ 本時の流れ（8／8時間目）

- (1) 実際の新聞記事を見て、アップとルーズの写真を探す。
 - (2) 記事を読み、何を伝えたい写真なのかを読みとる。
 - (3) ワークシートにまとめる。
 - (4) 共有し、アップとルーズが目的によって使い分けられていることを理解する。
-
- 事後 ・作ったワークシートグループや学級全体で共有する。
・新聞だけでなく、様々な媒体で使い分けられていることを知る。
 - 成果と課題
 - 実際の新聞を使って学習することにより、身近に学習したことがあることを知ることができた。
 - タブレットを使うことにより、友達の作品を参考にしたり、比較したりできる。
 - ▲ 言葉が難しく理解しにくいものもあるので、普段から辞書等で調べる癖をつけさせ

授業実践 5年 国語科

- 単元 事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう
(教材：「想像力のスイッチを入れよう」)
- 目標 新聞記事の事例と意見の関係をとらえた上で、筆者が述べていた4つの「想像力のスイッチ」をもとに記事の内容を多面的に捉える。
- 事前 教材「想像力のスイッチ」で4つの「想像力のスイッチ」について学ぶ。
- 本時の流れ（5／6時間目）
 - (1) 新聞記事の事例と意見を捉える。
 - (2) 4つの「想像力のスイッチ」をもとに新聞記事に書かれていないことを想像する。

(3) 考えたことをまとめ発表する。

□ 成果と課題

- 新聞の投書について時間をかけて読ませたことで、新聞に対する興味・関心を高めることができた。
- 新聞記事を憶測で読むのではなく多面的な考えをすることで、様々なことを予想することができた。

授業実践 6年 国語科

□ 単元 日本文化を発信しよう

□ 目標 新聞の見出し、小見出し、リード文等のバランスを参考に、割り付けを考え、パンフレットを作る。

□ 事前 集めた情報を整理して、パンフレットの構成を決め、誰がどのページを書くか分担を決める。

□ 本時の流れ（3／7時間目）

- (1) 新聞を読んで、見出し、小見出し、リード文はどこにあたるかを確認する。
- (2) 最も伝えたいことは何かを明確にし、絵や写真とのバランスを考えて割り付けを工夫したり、読者を意識した見出しや小見出し、リード文などを書いたりする。
- (3) 教科書の文章構成の例を参考にして、割り付けを考える。

□ 事後 班ごとに作ったパンフレットを読み合い、工夫が見られた点など感想を交流し合う。

□ 成果と課題

- お手本になる新聞に多種多様な割り付けがあるため、自分の表現したいことに合った割り付けを見つけ、考えることができた。
- ▲ 割り付けの配置などは新聞を参考にしたが、見出しの工夫や文章の細かい内容まで例文を生かすことができなかった。

授業実践 6年 社会科

□ 単元 「明治の新しい国づくり」（5／9） 「戦争と人々の暮らし」（4／7）

□ 目標 新聞記事を発展的な調べ学習等の資料として活用し、歴史のついで理解を深める。

□ 本時 授業の深める過程で、新聞の記事を提示し、それを含めた振り返り（感想）をまとめる。

(1) 明治維新に関する学習をした後に、鹿児島の人々たちに関する新聞記事を提示する

【(1) 戦後の生活について学習した後に、黒柳徹子さんの体験談に関する新聞記事を提示する。】

(2) 読んだ後に、グループで感想を述べ合い、交流する。

(3) 本時の学習内容の振り返りを書く。

□ 事後 提示した新聞記事は教室等に掲示する。

□ 成果と課題

- 鹿児島に関する記事やゆかりのある偉人の説明など、発展的な内容に触れることができ、考えや知識を深めることができた。
- ▲ 教科書以上の内容が載っているのて、発展的な内容として取り扱う方法しかできなかった。本来ならば、調べ学習に利用できるような記事を集めて活用できるとさらによかったと思う。

5 成果と課題

(1) 成果

ア 職員研修を行うことにより、NIEの概要、各学年の実践例などを確認したうえで、年間を通した取組を実施できた。

イ 学年1つ以上の授業実践に取り組み、職員間で共有することにより、本校における系統性をもった実践事例を確認できた。

ウ 様々な委員会活動において、目的や時期に合わせた新聞活用ができた。

(2) 課題

ア 実践事例を来年度以降も引き継げるように、教育課程に取組内容を明記する。また、教科部会で、年度初めの取組方法の確認と学期末の取組状況の確認を行う。

イ 教児ともに定期的に新聞にふれることができるように、全校でファミリーフォーカスや新聞音読などに取り組む時期を設定する。

令和5年度 NIE 実践報告（実践校3年目）

いちき串木野市立荒川小学校

1 はじめに

本校は、いちき串木野市北西部に位置し、3学級全児童15名の小規模校である。令和3年度より国語科研究「自分の考えを適切に表現できる子どもの育成」を進めるにあたり新聞を学習に活用することが学力向上に有効であると考え、NIEの取組を行っている。さらにNIE実践3年目の今年度は、NIEの実践に1人1台端末を取り入れた試みも行った。また、新聞を定期購読している家庭も少なくなっているため、日常的に新聞にふれる機会を増やし、新聞に慣れ親しむことを目標に、新聞を活用した様々な取組を行った。

2 本校NIE教育の目標

【新聞を読むことに慣れ親しみ、「書く」活動に活かす】

低学年・・・新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

中学年・・・新聞に対する興味関心を高め、新聞に親しむことができる。

新聞記事を読み、思いや考えを簡単な文章に書くことができる。

高学年・・・興味関心のある記事を選択し、記事に対する思いや考えを書くことができる。

各教科の学習内容を新聞形式にまとめることができる。

3 具体的な実践内容

- (1) NIEタイム（チャレンジタイム）の実施
- (2) 新聞コーナーの設置
- (3) 各教科での新聞づくり
- (4) 南日本新聞への投稿・よむのびコンクールへの参加
- (5) 新聞スピーチ



4 取り組みの実際

(1) NIEタイム（チャレンジタイム）の実施

毎月1回、土曜授業のチャレンジタイム（8：25～8：40）の時間をNIEタイムとして設定し、全学年で取り組んだ。今年度は、ワークシートを各学年にロイロノートで配信し、活動に取り組んだ。

（1年生は2学期の後半から）



【児童に配信したロイロノート画面】

- 低学年・・・① 新聞の読み方や記事からのことば・カタカナ・漢字探しゲーム。
- ② 子ども新聞を自由に読み、興味をもった写真や記事について発表。また、選んだ理由についても自分の考えをまとめ発表する。



- 中学年・・・① 新聞の読み方について学習
- ② 南日本新聞社等の HP に掲載されているワークシートを活用し、掲載されている記事の内容を読み取る力を高める活動
- ③ 1人1台端末を活用し、学年に適したワークシートをロイロノートで配信。

- 高学年・・・① 新聞の読み方・書き方について学習
- ② 南日本新聞社等の HP に掲載されているワークシートを活用し、記事の内容を読み取る力を高める活動。
- ③ 記事を読み触れることで、新聞に書かれている内容を把握し、見出しの付け方などの書き方について学ぶ活動。
- ④ 1人1台端末を活用し、学年に適した内容のワークシートをロイロノートで配信。



(2) 新聞コーナーの設置

NIEの取組によりこれまで配達していただいた『子ども新聞』を図書室の新聞コーナーにストックしておいたり、廊下のNIEコーナーに掲示したりして、児童が継続して閲覧できるようにしている。



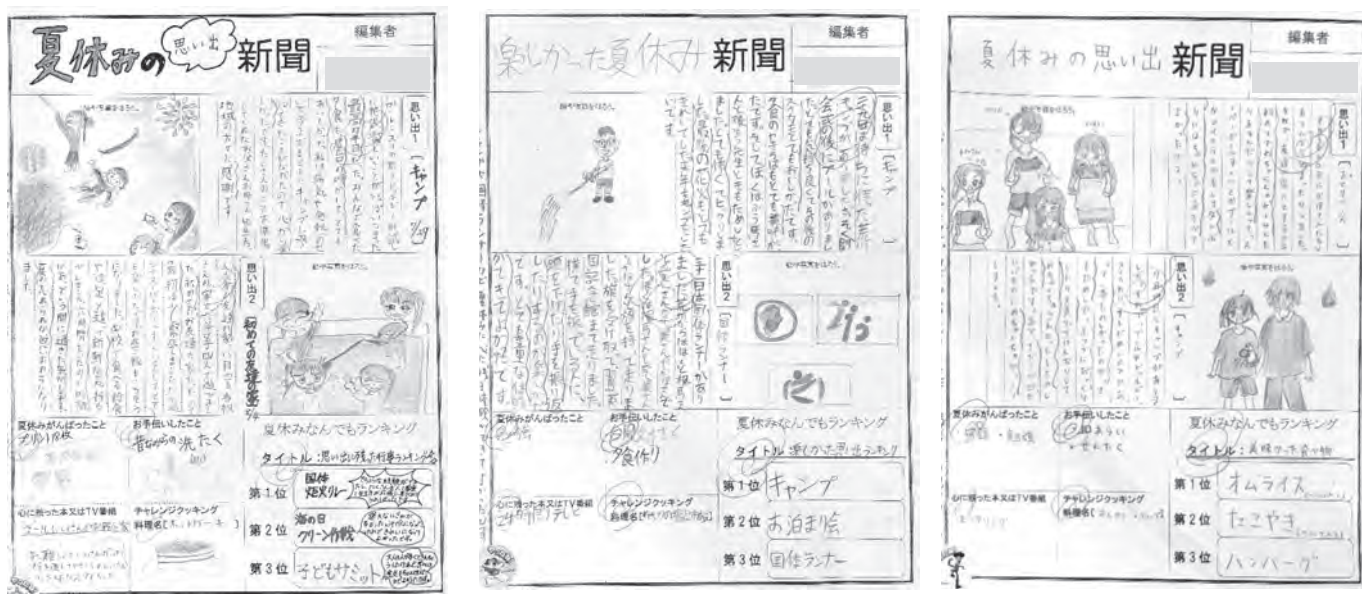
【図書室の新聞コーナー】



【廊下のNIEコーナー】

(3) 各教科での新聞づくり

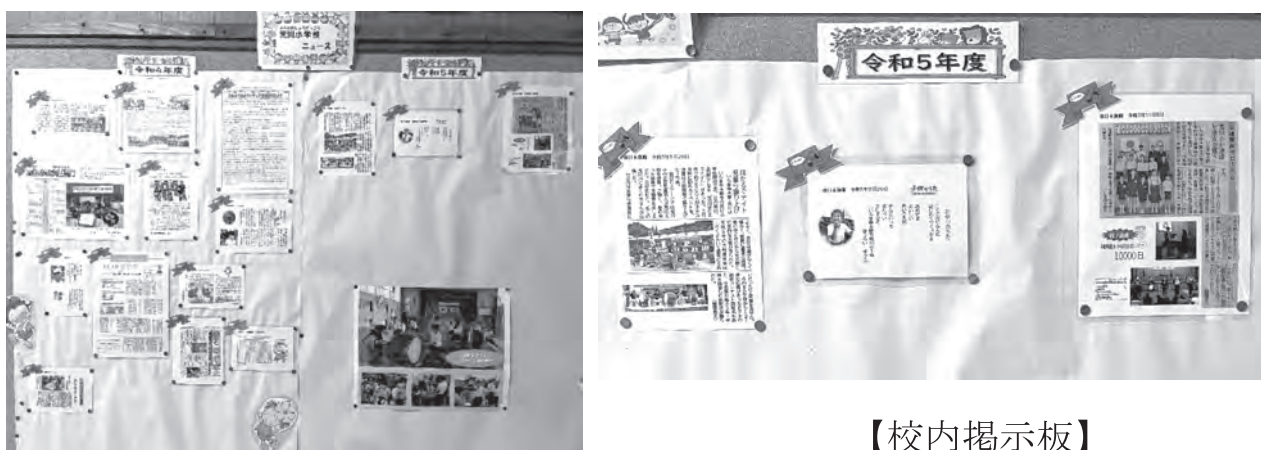
国語や社会の学習などを中心に新聞形式にまとめる活動を行った。



【子どもたちの作品】

(4) 南日本新聞への投稿・よむのびコンクールへの参加

南日本新聞『若い目』への一人一投稿を目標に、詩や日記、行事の感想、夏休みの作文等をもとに投稿を行った。また、南日本新聞への「読むのびコンクール」にも、4年生以上の児童が応募を行った。



【校内掲示板】

(5) 新聞スピーチ

高学年では、朝の会等を使い新聞スピーチに取り組んだ。

毎週1回当番の子どもが、興味を持った新聞記事を選び、記事の内容と感想をスピーチする活動。自分の選んだ記事を読み、内容について考え、友達が分かるように伝える。また、発表する友達の考えを聞き、意見をもつことができるように声掛けも行った。

5 成果と課題

成 果

- ・ 学級で新聞の紹介をしたり、廊下へ掲示したりすることで、新聞に親しむきっかけとなった。新聞の読み方を理解することができた。
- ・ 自分が興味を持った記事を選び、教師側が内容を読んであげること、記事の内容にも触れ、自分の考えをまとめ発表することができるようになってきた。
- ・ 難しい内容もあるが、オセモコなどの子供向け記事を通して、新聞に親しむきっかけになった。
- ・ 学年に応じたワークシートをロイロノートで配信することで、意欲的に活動に取り組む様子が見られた。
- ・ 各教科にも関連するような新聞記事を用いたワークシートに取り組むことで、読解力・語彙力を高めることができた。
- ・ 継続して新聞を読む機会を設けることで、多様な記事の中から興味をもったものを選択し読み進めることができるようになってきている。
- ・ 記事に対する思いや考えを簡潔に文章に書くことができるようになってきた。また、学習したことや夏休み・冬休みの出来事を新聞形式に整理してまとめることに慣れてきた。

課 題

- ・ 記事の内容を理解するための読解力が必要であり、そのための読解力・漢字力は、個人差が大きい。そのため、まずは新聞だけでなく、日頃から活字に触れる機会を設定しておくことが必要である。
- ・ 新聞の活字が小さい、興味を持っても読めない漢字があるなどの理由から読むことに抵抗を感じる子どももいる。発達段階に応じた効果的な活用方法を考えていきたい。
- ・ 南日本新聞社への投稿は、全員実施することを目標としていたが、実行することができなかった。年間を通して計画的な投稿が必要である。

6 来年度に向けて

全校での取り組みは、主に月1回のチャレンジタイムの時間を中心に行った。今年度は、ワークシートをタブレット配信で行ったので、児童も初めは戸惑った様子だった。上学年はタイピングのスピードも速くなっているため、タブレットで新聞づくりを行うことで、自分の考えをまとめながら記載することができる良さもある。下学年は、ひらがなや漢字の読みがまだあまりできないので、ゲーム感覚で新聞に触れていくことを取り入れ、少しずつ内容を読んであげる必要がある。また、それらの活動の取組は担任裁量であるため、学級間での情報交換を行いながら進める必要がある。今年度の課題を次につなげることができるよう取組を整理し内容を検討・見直しを行っていききたい。

そして、今年度の活動では新聞社への投稿数が少なかった。そのため、自分や友達の作品が記事になることへの喜びを全校で味わえるよう、多くの作品の投稿に力を入れたい。さらに、児童が興味を持った新聞記事を集約するなど、新聞に触れる機会を増やしていきたい。

令和5年度 N I E実践報告（2年目）

鹿児島市立向陽小学校

1 はじめに

本校は、これまでに新聞を活用することで、「書く力」を中心とした学力の向上や言葉による表現力の向上を目指してきた。今年度も、児童が新聞にふれる機会を増やし、自分が感じたことを豊かに表現できることを目標に、新聞を活用した様々な取組を行うことができた。

2 本校N I E教育の目標

新聞に慣れ親しみ、「書く」活動に活かす

低学年・・・新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

中学年・・・新聞に対する興味関心を高め、新聞に親しむことができる。

高学年・・・新聞の読み方が分かり、興味関心のある記事を選択することができる。
記事の内容を自分の経験や体験と比べながら読み、記事に対する思いや考えを書くことができる。

3 実践内容

- (1) 新聞コーナーの設置
- (2) 新聞を活用した家庭学習（視写活動・回し読み新聞・ワークシート）
- (3) クロヌリハイクの取組

4 研究の実際

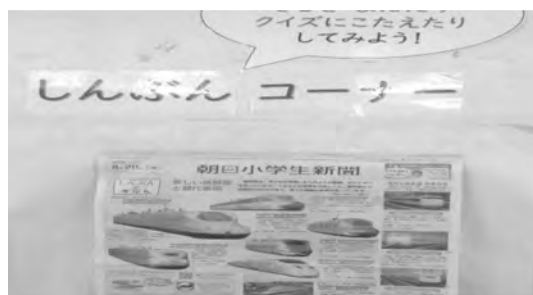
- (1) 新聞コーナーの設置

各学年廊下等に「新聞コーナー」を設け、児童が日常的に新聞に親しめるようにしている。（月1回程度記事を更新）

【低学年・中学年の取組】

昨年度に引き続き、低学年は、クイズや漫画コーナーなどの記事を中心に、児童が興味を持ちそうな記事を選んで掲示した。漢字にふりがながついているとはいえ、低学年が自分で文字や文章を読める記事が少ない。そこで、今年度は記事の内容にもふれながら、文字探しなどの遊びを取り入れ、新聞に親しむ活動に取り組んだ。

休み時間に友達と記事からひらがなや学習した漢字を探したり、クイズに答えたりする様子が多く見られた。自分が知っていることや経験していることが記事にあると、喜んで見ている様子もあった。



【高学年】

高学年では、児童が選んだ記事を学年の踊り場に掲示するようにした。選んだ記事の横に選んだ児童名も一緒に掲示し、選者の紹介もしている。大きく報道される事件以外にも、地域に関する記事や自分たちの生活に関する記事など、様々な視点から記事を選び、毎回楽しく記事を読む姿が見られた。



(2) 新聞を活用した家庭学習

今年度は高学年の取組として、家庭学習にも新聞を積極的に取り入れた。この取組は、令和3年度から継続されており、3年目となる。

【コラム欄の視写活動】

週に1度の家庭学習として、「天声こども語」(朝日小学生新聞)や「若い目」(南日本新聞)に掲載されているコラムや投書を視写し、意味調べや簡単な感想記入に取り組んだ。文章の構成や多様な言葉にふれることで、語彙が豊かになり、普段の日記や作文などに活用する児童が増えた。また、感想記入には文字数を設定することで、自分の思いを読み手に分かりやすく書いたり、簡潔に考えを述べる記述が見られたりするようになった。

① 今日の文章を声に出して読もう。
② 習っていない漢字もよく見て、一部を視写しよう。
③ 書き終わったら、間違えがないか確かめよう。
④ 読んだ感想を100～120字以内で書きましょう。

新聞のコラム

感想

コラムの視写

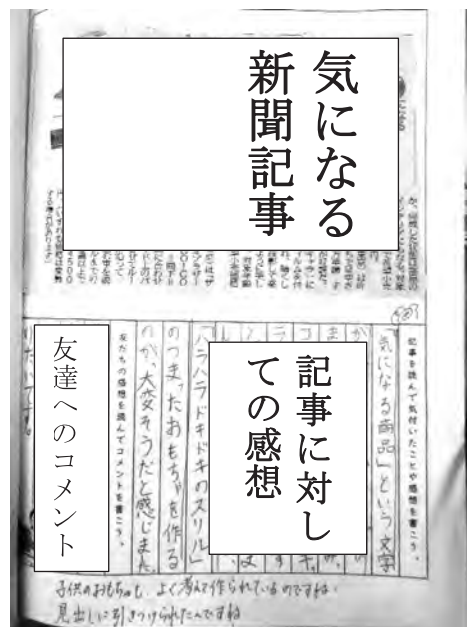
The image shows a worksheet for a newspaper column transcription activity. It includes instructions for reading aloud, identifying unfamiliar characters, and writing a 100-120 character reflection. The worksheet is divided into sections for the newspaper column, the student's reflection, and a transcription grid. The grid contains handwritten Japanese text from a newspaper column, with some words circled or underlined. The reflection section has a grid for writing the student's thoughts.

【回し読み新聞】

各学級で「回し読み新聞」のファイルを作成し、1年間、気になる新聞を互いに読み合ったり、友達の考えにコメントをしたりする活動を行った。意外性のある記事や小さな記事を紹介する児童も多く、多様な考えにふれることができた。また、友達の考えを受け止めて自分の考えを書くことで、記事や友達の考えをしっかりと読む習慣が身に付いてきた。

回し読み新聞の取り組み方を紹介する。

- ① 担当になった児童が新聞から気になる記事を選び、感想を書く。
- ② 翌朝、担任へファイルを提出し、担任は次の担当児童へ回す。回された児童は、友達の感想にコメントを記入する。
- ③ 友達にコメントをしたら、自分が気になる新聞記事を選び、感想を記入する。



【ワークシート（みなみEdu）の活用】

5年生では、週1回の家庭学習に南日本新聞社が提供しているワークシートを活用した。内容や設問をしっかりと読む取力や設問に合った答え方をする力の向上を図った。実際の新聞記事がワークシートになっているので、児童の関心も高く、活字にふれる良い機会になった。また、家庭でも記事を話題にできると好評だ。

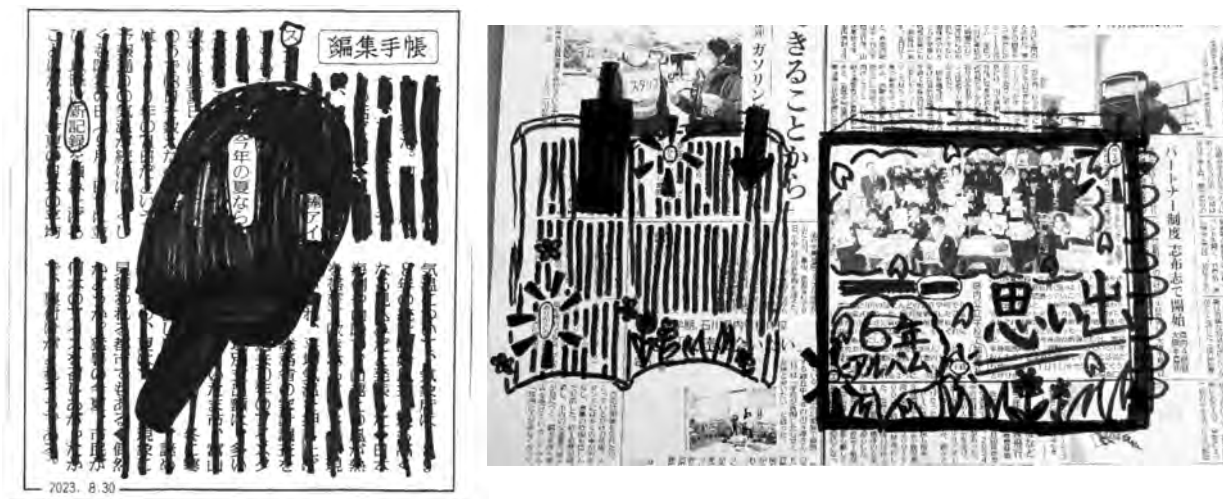


- ・ワークシートは、下学年・上学年・中学校と発達段階に分けて作成されている。（写真は上学年）
- ・記事に関連する教科も表示されており、授業との関連や発展的な内容も取り扱うことができる。
- ・記事の内容について3～4問出題されている。15分間を目安に取り組んでいる。

（3）クロヌリハイクの取組

本校では令和5年度から月1回朝活動で「俳句の日」を設定したり、新聞やコンクールへの俳句作品応募に取り組んだりするなどして、俳句学習に力を入れている。今年度は、NIE全国大会(松山大会)でワークショップとして紹介された「クロヌリハイク」を5年生が授業に取り入れ、新聞を活用した俳句作りとして取り組んだ。

クロヌリハイクは、新聞記事から季語や気になる言葉（五音・七音）を探しだし、それらをつないで俳句を作る。俳句が出来たら、俳句以外の文字を黒く塗りつぶして俳句を浮かび上がらせる。絵などを添えることもできる。新聞記事から俳句を生み出すので、言葉を自分で考えることもなく、児童は取り組みやすい。また、新聞記事の言葉には、児童が普段使わない言葉も多く語彙が広がった俳句ができる。



5 成果と課題

成果

- ・ 児童が新聞や新聞記事を身近に感じられるようになった。また、記事について友達同士で話をする機会も多く見られ、政治・環境・スポーツ・郷土等これまではあまり興味を示さなかった話題にも関心を持っていた。
- ・ 家庭学習で継続して新聞を読む機会を設けることで、活字に対する苦手意識が少なくなってきた。また、感想文章が表現豊かになってきている。
- ・ 新聞を活用した取組により、これまで知らなかった言葉と出会うことができ、児童の語彙が広がっていることを感じる。また、普段のノート記述にも新しい言葉を進んで活用したり、より分かりやすい表現を生み出したりしようという姿が見られるようになってきている。
- ・ 自分の思いや考えを進んで表現しようとしたり、表現することを楽しんだりする姿が多く見られるようになった。

課題

- ・ 低学年は新聞コーナー以外での取組が少なかった。
- ・ 読む力に個人差がまだ大きい。活字に継続的にふれさせて、読むスピードや量を向上させていきたい。
- ・ 新聞を定期購入している家庭が少なく、児童が新聞を手に入れることが難しい。ネット購読なども視野に入れ、新聞に親しめる環境作りが必要である。

6 来年度に向けて

今年度は、昨年度からの実践継続という形で取り組んだ。学年間での情報交換や教材共有などを進め、職員への過度な負担がないように進めることができた。3年目に向けてさらに内容の整理を行い、充実した指導を図っていきたい。

令和5年度 N I E実践報告（1年目）

志布志市立志布志小学校

1 はじめに

本校は、志布志市中心部に位置し、全校児童 269 名の学校である。新聞を購読している家庭が少なくなっている中、新聞に触れる機会を増やし、新聞読解を通して自分の考えを広げることができる子どもの育成を目標に、NIE 実践校としての活動を行った。

また、各教科共通の課題として、課題解決に必要な情報や条件を読み取る力を子供たちに身に付けさせたいということがある。そのための手立ての一つとして、新聞を学習に活用することが有効なのではないかと考えた。

実践初年度で手探りの状況であるが、本校での本年度の活動を報告する。

2 本校のN I E教育の目標

新聞に親しみ、自分の考えを広げることができる子どもの育成

【低学年】

- 新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

【中学年】

- 新聞に対する興味関心を高め、新聞に慣れ親しむことができる。
- 新聞を読み、記事に対して自分の思いや考えを表現できる。

【高学年】

- 新聞のよさや興味のある記事を選択することができる。
- 新聞を読んで自分の感想・意見をまとめ、記事に対する考えを友達と交流することができる。

3 実践内容

- (1) 新聞コーナーの設置
- (2) 新聞を活用した授業の実践
- (3) 新聞を活用した家庭学習や家庭との連携
- (4) 新聞社（ひろば、子供のうた、こども五・七・GO!）への投稿

4 研究の実際

(1) 新聞コーナーの設置

○ 図書室の新聞コーナーの充実を図り、子どもが新聞に親しめるよう工夫する。



写真のような新聞コーナーを図書室内と廊下に設置した。全体の傾向として、自分から積極的に新聞をめくる児童はまだ多いとは言えないが、学校全体として新聞投稿に取り組んでいる関係で、「ひろば」や「子供のうた」をチェックしながら、他の記事にも興味を持って見ている様子だった。

10月～12月にかけて配布された子ども新聞には、写真のように低学年の児童も興味を持って見ている姿が見られ、新聞に慣れ親しむ機会が増えた。

(2) 新聞を活用した取組や授業の実践

○ 各学年において発達段階や教科のねらいを踏まえたうえで、新聞を活用した授業を実施する。



左の写真は4年生の社会科「昔から今へと続くまちづくり」で行った実践である。新聞のまとめ方を参考にしながら、見出しの工夫をしたり、年表やグラフにまとめたりした。これ以前の社会科の学習でも、新聞形式でまとめをしており、回数を重ねるごとに効果的なグラフの使い方や構成の組み立て方ができるようになってきた。

右の写真は特別支援学級で行った実践である。「伝えたい日本の伝統文化」をテーマに新聞にまとめた。ロイロノートでパンフレットを作成しており，見出しや小見出し，本文に分けて記事を書く学習をした。調べて分かったことから引用した部分と，自分で考えたことを分けて書く活動などを通して，どうすれば読み手に伝わるかや，効果的な表現方法などについて，考えを深めることができた。

(3) 新聞を活用した家庭学習や家庭との連携

- 家庭と連携して「よむのびワークシート」を活用した家庭学習や「よむのびコンクール」への積極的な応募に取り組む。

南日本新聞のホームページに掲載されている「よむのびワークシート」を，宿題や朝の自学自習の時間（志タイム）に実施した。

各学級で実施したワークシートを，右写真のように廊下に掲示した。



(4) 新聞社（ひろば，子供のうた，こども五・七・GO!）への投稿

- 子どもの作品を積極的に応募する。

右の写真は，本校児童が新聞に掲載された記事をまとめたもので，新聞コーナーと同様に図書室前の廊下に掲示している。

中でも，「子供のうた」への投稿が積極的に行われ，多くの児童が掲載された。そのことが子供たちの詩を書く意欲に繋がり，また，新聞に触れる機会が増えることにも繋がった。



5 成果と課題

- ・ 今年度は昨年度までと比べると，特に新聞社への投稿に積極的に取り組んでいた学年が多かった。新聞に掲載されることを一つの目標として取り組んでいる児童もあり，新聞をより身近なものに感じるためのよいきっかけとなった。
- ・ 来年度から教科書が変わるというタイミングだったため，授業や委員会活動などを絡めた取り組みは教育課程の編成と合わせて，これから検討していく。
- ・ 3ヶ月間配布された「こども新聞」に興味を持っている子供が多かった。よむのびワークシートのような教材化ができればと考えている。

令和5年度 NIE実践報告

さつま町立鶴田小学校

1 はじめに

本校は、再編して2年目の新設小学校である。昨年度までは、南日本新聞を購入し、児童玄関で児童が閲覧することができた。また、町教育委員会が「すくーる373る」を整備しており、時々授業で活用していた。

1年間だけの指定となるが、新聞への興味を高める取組を中心に実践した。

2 テーマ

「新聞に親しみ自分の学習や生活の中で、主体的に活かすことができる児童の育成」

3 NIE教育の目標

(1) 低学年

- 新聞の写真や文字に興味をもつことができる。

(2) 中学年

- 提示された新聞記事の感想を書いたり、それを交流したりすることができる。
- 学習した内容を、新聞にまとめることができる。

(3) 高学年

- 興味のある新聞記事を選択し、自分の考えを事実を基に書くことができる。
- 学習課題を解決するための情報を見付け、解決に活かすことができる。
- 学習内容を見出しやリード文、事実と意見に気を付けて新聞に書くことができる。

4 具体的な実践

(1) 新聞への興味を高める取組

ア 効果的な閲覧場所の確保

児童に新聞への興味をもたせるため、児童玄関入口に設置した机の上にその日の新聞を置いた(①)。その際、



児童に注目して欲しい記事を目立たせるための工夫として、大きな矢印でその記事を指し示した(②)。

イ 新聞への興味を高めさせる取組

新聞への興味を高めさせるために、1学期は担任が新聞閲覧を促すための声かけを積極的に行った。また、記事によっては担任が教室へ持ち込み、学級の児童へ記事を紹介した(③)。



ウ 新聞を身近に感じさせる取組

学習内容や子供の興味・関心に対応できる記事があった場合には、担任が新聞を学級に持ち込み、児童に紹介して全員に読ませた(④)。

写真の記事には、昨年度まで本校で英語専科として児童と係わっていたJICA職員のインタビューが掲載されており、子供達が興味をもって読んでいた。

エ 新聞とのつながりをもたせる投稿

日記を若い目や子どものうた等に投稿した。高学年担任が児童の書いた日記や詩を、積極的に投稿している。今年度の掲載数は、高学年児童42人中17人(⑤)となっている。

自分の日記や詩が掲載されることで新聞への関心が高まると共に、新聞社で校正された部分から、よりよい表現のよさに気付くこともできた。

さらに、友達の作品が掲載されていることで、周りの児童が新聞への興味を高めることにつながった。



オ 新聞を読むためのスキルを高める取組

新聞を読むためのスキルを高めるために、2年生全員に新聞を配付し、これまでに学習した漢字を確認させた。これにより、自分たちでも読める漢字があることをとらえさせた(⑥)。

また、新聞と図書室にある書籍との違いを考えさせたところ、写真や絵のよさについての発表があった。そこで、さらに、見出しを見て読みたい記事を選び、その上で詳しく書かれている記事を読めることのよさを伝えた(⑦)。

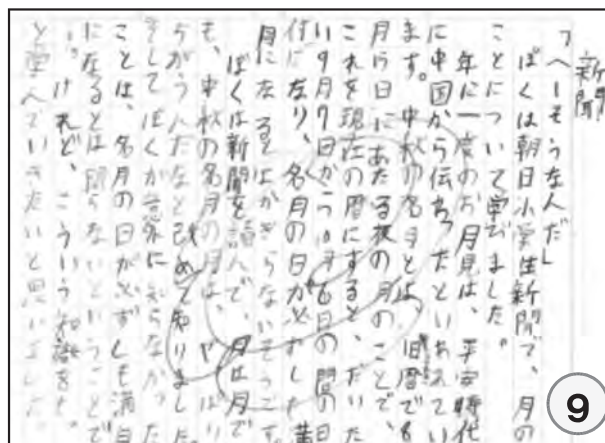


(2) 自分の考えをもつための根拠として活用する取組

ア 配付した新聞と自宅学習をリンクさせた取組

学期2回、5年生に自分の興味のある記事が掲載されている子供新聞を自分で選択させ、持ち帰らせた(⑧)。

さらに、書かれている記事(事実)を基に、自分の考え(意見)を日記に書かせた。また、新聞のよさを自覚させるために、新聞のよさを書かせた時もあった(⑨)。



イ 記事(事実)を基に考えたことを共有する取組

6年では、すくーる373を活用した意見交流を行っている。発表者はすくーる373の記事を閲覧し、自分が紹介したい内容を決める。さらに、その記事を読んで考えた自分の意見をまとめる。そして、それらを朝の会で発表している(⑩)。

6年生は21人いるので、だいたい月1回の発表となるが、その中で様々な記事に触れられる新聞のよさに気付いている。



ウ 学習内容をまとめる形式としての新聞形式の活用



社会科や総合的な学習の時間で学習した内容をまとめる形式として新聞形式を活用した。4年で新聞の形式について学んでいるが、その内容が身に付いているとは言えなかった。

そこで、新聞形式にまとめる際に実際の新聞を手元に準備させ、紙面には見出しやリード文があること、それを詳しくした記事があること、さらに、絵やグラフを活用していることなどを再確認してから、新聞形式にまとめさせた(⑪)。

エ 様々な人の意見を活用する取組

方言の必要性について考えさせることを目的とした授業で、方言は必要か必要でないかの意見を発表させ、その意見を裏付けるための記事(意見)をすくーる373で検索(⑫)し、活用させた。キーワードでの検索機能と全員が同じ記事を見ることができる(⑬)ため、事実の客観性・信憑性を確認することができた。



オ 傾向をつかむための情報源としての活用

テレビの役割や戦略を学ぶ5年社会科の授業で、各テレビ局が放映しているジャンルの傾向や、全テレビ局で時間帯毎に放映されているジャンルの傾向を調べる情報源として、新聞のテレビ番組欄を活用した(⑭)。

新聞を活用すると、1日分だけでなく複数の日を調べられることで、より客観的な情報となり、結果の信憑性が高まった。



5 成果と課題

(1) 成果

- 新聞に触れる場、新聞の閲覧場所確保、教師との閲覧、朝の会・授業での活用を通して、新聞への興味を高めさせたり、そのよさを感じさせたりすることができた。
- 新聞の見方、見出し・リード文・記事の仕組みを学ばせることで、効率的・効果的に情報を収集できることのよさを感じることができた。
- 自分の考えを主張する際の、根拠となる記事(事実)が多数存在することを認識すると共に、最適な記事を選択することができるようになってきた。
- すくーる373は、全員が同じ記事を過去にさかのぼって活用できるため、非常に効果的だった。
- 自分が読みたい記事が掲載された新聞を持ち帰らせたことで、新聞への興味がかなり高まった。

(2) 課題

- 設定した目標に対する具体的な取組を継続的に行うことができなかった。発達段階と活用方法をリンクさせた、具体的な取組策を立てて実践する必要がある。
- 新聞の閲覧場所として、全児童の目に触れる児童玄関がいいのか、記事を読むことができる高学年の目に触れやすい場所がいいのかを、再検討する必要がある。
- 社会科や総合的な学習の時間のまとめを新聞形式で行うことで、新聞のつくりのよさを感じさせると共に、そのよさを自ら活用させていくことを、さらに推進していくことが効果的である。

令和5年度 NIE 実践報告

薩摩川内市立平成中学校

NIE 担当 宮崎 雅美

1 はじめに

実践4年目の今年度は、『NIE実践を通して、生徒の視野を広げるとともに、様々な角度から物事を見たり考えたりするきっかけづくりとする。』ことを大きな目的として取り組んだ。

新聞で取り上げられているニュースをもとに、「主体的・対話的で深い学び」を通して、生徒一人ひとりが今日的課題を発見し、問題解決力を育むための新聞教材の効果的な活用を探った。

2 実践内容

(1) 新聞記事の掲示

生徒の興味ある話題や身近な鹿児島で起きていることを取り上げ、まずは興味を引きつける話題を掲示した。さらに、国内外で起きている問題を「いつでも誰にでも起こりうること」と捉え、様々な話題の記事を生徒に紹介している。また、生徒にとって他人事ではない、SNS 使用が原因となる問題（生命に関わる問題や性被害、人権侵害等）や国際社会に関する問題については、当事者として捉えてほしい思いから記事の更新を図っている。その他、関心の高くない分野にも目を向けてほしいという意図で、多岐にわたる記事を掲示している。

【 校内に掲示された新聞記事 】



身近な話題
かがしま国体・
川内大綱引



LGBTQ
制服をどうするか？

能登半島地震・月面
着陸・大学進学費
自分のこととして

(2) みなみEdu「コラムを読み解く」の活用

南日本新聞のホームページに掲載されている、新聞記事を使ったワークシート「コラムを読み解く」を授業で活用した。生きた情報が教材となっているため、読解力の向上だけでなく、その記事のその後の話題が新聞に掲載されていることで、ワークシートから社会問題や環境問題につながり、生徒の興味・関心が広がるきっかけとなった。



(3) 授業での記事紹介

日常生活では教科書の中でしか触れない話題(環境問題・人権・食や健康・国際社会など)を新聞に掲載された際に紹介し、自分たちの生活にも深く関連することに気づかせ、自らの考えや意見を持たせる場としている。



(4) 薩摩川内元気塾

本校では年2回、『薩摩川内元気塾』を開催している。「将来、日本規模・世界規模の広い視点で物事を考え、自分を磨き、郷土薩摩川内市に大いなる元気を与え、貢献してくれる人材を育成しよう」との趣旨で市教育委員会が開設し、薩摩川内市内の全小・中学校・義務教育学校で行われている。

子どもたちの希望を聞いたり、地域の協力をもらったりしながら、将来の夢や希望を与えるような講師を選定し、講演会やワークショップ型の学習会を開いたりするものである。

今年度は、南日本新聞社より講師をお招きし、『新聞のできるまで』の講演のあと、グループでワークショップ『まわしよみ新聞』を行った。生徒は気になる記事を真剣に探したり切り抜いたりした後、気になった記事をグループで発表し、掲載する記事を選定・レイアウト・新聞名を協力して考えていた。

この時間のまとめとして、グループごとに製作したオリジナル新聞を、全員の前で発表し合った。ネーミングの由来、記事を取り上げた理由、レイアウトで工夫した部分など、「相手に伝わりやすく」を意識しながら全グループが発表できた。



< 生徒の感想 >

- ・ 新聞に載せる1枚の写真のために何百枚も撮ることは、沢山の時間と労力が使われていて、なかなかできないと思いました。
- ・ フェイクニュースに騙される割合が、全体で75%以上もあってとても驚きでした。
- ・ 自分たちで記事を3つも選ぶ作業が難しかった。いつも時間がなくてじっくり見ることはできないけど、これから「見出し」や「頭・肩・腹」の部分だけでも読みたいと思いました。

今回の活動は、紙面作成の裏で読者により伝わる、わかりやすい情報のために努力する記者・カメラマンの姿を知るきっかけとなった。また、情報が信頼できるものかを各々が判断すべきことであることもいっそう現実としてとらえ、授業での学習と関連させて重要性を知る機会となった。

(5) 授業での実践

1 1年 ふるさと・コミュニケーション科(新聞のしくみ)

「宿泊学習の活動を壁新聞で報告しよう」

- ◇ 目標 体験したことを、分かりやすく伝える新聞をつくる。
- ◇ 事前 グループで記事の分担を決め、各自で原稿を書いておく。
- ◇ 本時の流れ(2/3時間目)
 - (1) 持ち寄った記事の中から伝えたい順を話し合い、決定する。
 - (2) 実際の新聞のレイアウトを参考にして、壁新聞のレイアウトを決める。
 - (3) 貼り合わせて、新聞のタイトルをつける。
- ◇ 事後 学級でグループごとに提示しながら発表した。いろいろなまとめ方があることを知った。
- ◇ 成果と課題
 - 伝えたい内容に順位をつけ、どう配置したらうまく伝わるかを話し合うことで、新聞の工夫を知ることができた。
 - 小見出しをつける際にも新聞を参考にしたが、人の興味を引く見出しより事実を取り上げるものが多かった。



2 2年 国語科(メディアの特徴) 「メディアを比べよう」

- ◇ 目標 情報メディアを比較し特徴を捉えた上で、目的に応じてメディアを選ぶことができる。
- ◇ 事前 本、雑誌、新聞、テレビ、ネットニュース、SNSのそれぞれの特徴を観点別に比較する。
- ◇ 本時の流れ(2/3時間目)
 - (1) 目的に応じてメディアを選ぶ際、どのメディアが適しているかを考える。(例 サッカーワールドカップ)
 - (2) 状況に応じてメディアを選ぶ際、どのメディアが適しているかを考える。(例 地震)
- ◇ 事後 何を知りたいのか(目的)を明確にし、状況次第で必要な情報が変化することを学習した。



◇ 成果と課題

- 情報の発信元や発信された日時・時間に注目して、情報の信頼性について考えることができた。また、話し合いの中で他者の意見を聞いたことで新しい見方に気づく姿も見られた。
- 情報メディアを観点ごとに比べ、優劣をつけることに苦戦していた。

3 3年 国語科（新聞記事の比較）

◇単元 「報道文を比較して読もう」

◇目標 同じ記事を扱った複数の記事を比べ、筆者の意図を読み取る。

◇事前 二社の新聞記事を観点ごとに比較し、筆者が伝えたいことを読み取る。

◇ 本時の流れ （3／3時間目）

- (1) 五社の新聞記事を観点ごとに比較する。（例 池江璃花子選手）
- (2) 筆者が伝えたいことを話し合い、まとめる。
- (3) 筆者の意図で受け取る印象が変わることをとらえ、情報の信頼性の観点で複数のメディアから情報を得る重要性と、それらを主体的に行う必要性を知る。

◇ 事後 比較したワークシートを相互に交換し意見交流を行った。

◇ 成果と課題

- 同じ記事でも他紙だと受ける印象が違うことに気づき、情報発信者の存在を考慮するようになった。
- 事実と意見を分類して考えたり、写真の意図を考慮したりすることの難しい生徒もいた。



3 実践を経て

「生徒の視野を広げる」「様々な角度から物事を見たり考えたりするきっかけづくりとする」ことを目的に新聞を教育活動に取り入れた。

〔成果〕

- ・ 新聞の校内掲示や作成を通して、様々な分野の知識に触れ、興味をもつ機会となった。
- ・ 情報メディアのそれぞれの利点を生かして活用することや、信頼性を吟味するために様々な見方や考え方が必要なことを知ることができた。

〔課題〕

- ・ 新聞を教材として取り入れやすい教科とそうでない教科に差があるため、他校の実践例を紹介したり、指導者が必要な時にいつでも手に取れるように記事のスクラップを設置したりする必要がある。
- ・ 発信者として、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力（話す・書く力）の充実も並行して進める必要がある。

これらの成果や課題をふまえ、より一層の活動内容の充実を図り、新聞の効果的な活用に取り組んでいきたい。

令和5年度 N I E 実践報告（実践4年目）

始良市立山田中学校
N I E 担当 内村加代子

1 はじめに

「新聞の内容に興味関心を持ち、自分の意見を述べ、生活に生かしていけるように、山田中全体で取り組む」を目標とした、令和5年度（実践4年目）の報告をする。

2 実践事例

(1) 生徒会活動での実践

ア 生徒会専門部組織にN I E 係を定着させ、今後も継続的な活動ができるようにしている。N I E 係が新聞コーナーをつくり、新聞の管理と校内掲示を行っている。



新聞コーナーの管理と掲示をするN I E 係



全校朝会でN I E 係がニュースを発表する

イ 週1回（火曜日）の全校朝会でN I E 係が「今週のトピック」として、最近の気になるニュースを紹介し、自分の意見を発表している。週1回の短い時間ではあるが、全校生徒で同じ社会課題について知り、考える貴重な時間になっている。

<発表内容の例>

- | | |
|----------------|----------------------|
| * 自転車ヘルメットの義務化 | * イスラエル軍によるガザ地区攻撃 |
| * 奄美本土復帰 70 年 | * 屋久島沖にアメリカ軍機オスプレイ墜落 |

ウ 本年も南日本新聞社の学習支援サイト「すくーる 373 る」を利用することが可能であったため、週1回の向学タイム（水曜日 25 分間の朝学習の時間）に、タブレットを利用し、新聞を読んでいる。読んだ記事の中から特に印象に残った内容について、一人ずつ、ふせん一枚に意見を書いている。意見を書いたふせんは、N I E コーナーに全校生徒分を掲示している。



一週間の新聞をデジタルで読む



意見をふせんに書き掲示

(2) 各教科・領域・行事等での実践

ア 保健室（養護教諭）

- ・健康に関する新聞記事を保健室前に掲示して、啓発を図っている。新聞には旬の情報が詳しく書いてあるので、興味関心を持つ生徒が多い。（熱中症・インフルエンザなど）



保健室前に健康に関する記事を掲示



理科 「オセモコ夏休み特集号・植物採集」を読む

イ 理科

- ・郷土鹿児島県の自然に関する記事「オセモコ夏休み特集号」を読み合わせた。環境を大切にしながら、弟や妹たちと植物採集をしてみたいという意見があった。自然を生かすことを学ぶことができた。

ウ 保健体育

- ・最近のスポーツニュースを定期テスト問題として出題することで、N I Eコーナーに置いてある新聞のスポーツ欄を熱心に閲覧している。
- ・保健学習において、健康・保健・安全に関する新聞記事を利用することで、課題解決学習や探究学習が充実した。
- ・スポーツ観戦日記を書くことで、競技に向かう選手の姿勢や自分が共感したところなど、自分の考えや思いを表現する機会になっている。

エ 数学

- ・オセモコ欄連載の「数からの挑戦状」を学習室に掲示したり、授業前に読んだりしている。授業と直接の関連はなくても、数学に興味を持ってもらうために数理パズル的な記事やコラム記事は有効である。

オ 美術

- ・南日本作品展などの入賞作品紹介記事を美術室内に掲示している。自分の作品をどのように仕上げればよいか、他の人の作品を鑑賞することで工夫しようとする意欲がでてきた。

カ 音楽

- ・新聞記事から郷土の音楽や伝統芸能などを紹介することで、地域行事へ興味関心が高まっている。

キ 国語

- ・3年生「複数の情報を関連付けて考えをまとめる」の学習において、「すくーる 373」を活用し、ガザ侵攻と現地の医療状況について調べさせ、比較読みを行った。他紙との論調の違い等にも着目することができた。

ク 避難訓練

- ・5月に地震を想定した避難訓練を実施する際に、資料として5月5日石川県、11日千葉県、13日鹿児島県中之島と連発している状況を、記事を並べて示し伝えた。地震列島日本で生活していることや、自分の身にも起こる可能性が高いことを実感し、真剣に訓練を行うための教材にすることができた。



2023 年
← 5月5日 石川県
5月11日 千葉県→
5月13日 中之島→
次々と震度5～6

←非常持ち出し品



ケ 全校朝会

- ・新聞の一面に掲載されている数種類の記事から、自分が一番気になった記事を発表させた。さらに同じ記事を選んだ生徒で集まり、互いに意見を述べ合い、考えを深めさせることができた。



自分が選んだ記事を発表（全校朝会）



地名クイズの後で紙面を読む（生徒集会）

コ 生徒集会

- ・「オセモコ冬休み特集号 2023」を活用して、生徒に地名クイズと記事を読む活動を企画させ、生徒朝会のレクリエーションとして実施した。地名クイズは記事から発展したものも用意したことで、紙面を読む際に、より興味を持つことができたようである。

サ 人権学習・文化祭

- ・10月の文化祭で人権に関する新聞記事を利用した創作劇を行った際には、「すくーる 373 ーる」の検索機能が有効であった。「男女平等日本は 125 位」「鹿児島県議会議員選挙 10 代投票率 23 %」「関東大震災から 100 年。災害時のデマ、今も」等の記事を利用し、脚本を作った。

<劇を演じた生徒の意見>

- * 災害時に広がるデマの恐ろしさを学んだ。100 年前の悲劇は決して他人事ではなく、今起きている外国人差別やデマ問題に通じている。差別は一部の人がする特別なものではなく、私たち皆が当事者になりうる。今後身の周りの差別に気づき、間違っているとはっきり言える人間になりたい。
- * ジェンダー平等と若者の政治参加は、まさに私の言いたいこと。世の中に広められるように努力していきたい。まず 18 歳になったら必ず選挙で投票する。
- * 災害が起こったときに外国人が犯罪しているというデマが、いつも広がっていることが分かった。私はこれから自分がデマっぽいと思った情報は、信じないようにしたい。



新聞記事を基に創作した人権劇を演じた



人権課題に関する記事をスクラップ

シ 社会科

- ・生徒自身が記事を選び、要約と自分の意見を記入して発表し合う新聞スクラップを行っている。本年度はテーマを「人権課題」とした。

<生徒の意見>

- * 【ロシアの学校教育戦時色強まる】子どもに銃の撃ち方を学校で教えているが、学校は戦争の怖さを伝え、世界の人と仲良くする方法を考えるところだ。戦争をしないことが大切だ。
- * 【南さつま 全中学で統一型制服】性別によって制服が限定されない選択制は、性的少数者が安心して学校生活を送れるようになる。この取組は良いことなので、広がってほしい。

3 終わりに

- ・生徒会組織に N I E 係を置き活動することで、N I E が日常化・継続化した。
- ・「山田中全体で取り組むこと」を目標とした 4 年間であった。年度初めに各先生方にごの場面で新聞を活用するか案を立ててもらい、12 月に報告してもらう方法をとったことで、学校全体で取り組むことができた。学校活動の多様な場面で新聞は活用できる。
- ・もう一つの目標である「記事に対して自分の意見を述べ、生活に生かす」は、生徒の意見にある程度達成している様子が見られる。継続して取り組みたい。

令和5年度 NIE 実践報告

奄美市立朝日中学校 国語科

1 はじめに

本校は NIE 実践 2 年目である。各学年 3 クラス規模の学校であり、生徒は好奇心が旺盛で新しいことにも柔軟に対応できるという優れた資質をもっている。昨年度に引き続き、「読み取った情報をもとに自分の考えを発展させて、視野を広げる」ことを主題として実践活動に取り組んできた。新聞で取り上げられるさまざまな情報や出来事をもとに、生徒自身が経験や身に付けてきた知識と照らし合わせて思考し、目的に合った話し合い活動をし、自分なりにどうすべきかを考える力を養ってほしい。そのためにどのような活動を展開していくべきか、試行錯誤しながら新聞の活用法を探った。

2 目標

「読み取った情報をもとに自分の考えを発展させて、視野を広げる。」

私たちを取り巻く多くの情報の中から、時と場合に合わせて最適な情報を取捨選択し、吟味し、分析・総合する力を身に付け、自分の考えを確立させたり視野を広げたりする力を養わせたい。

3 実践事例

(1) 新聞コーナーの設置

生徒がいつでも読める場所、生徒の往来が多い場所、そして生徒が一日に必ず通る場所として、生徒靴箱前に新聞コーナーを設置した。全国紙と地方紙を合わせて 6 紙を置き、生徒が閲覧できるようにした。

- ・ 新聞コーナーの設置期間を、今年度は 5・6 月と 1・2 月の二回に分け、5・6 月は新入生に NIE 実践の周知や本校の活動を浸透させることを目的とし、1・2 月は受験生へ時事問題の話題を提供するために設定した。
- ・ 全国紙・地方紙のニュースの取り扱いの違いや、立場によって視点や論点が異なる点などに気付くことができた。
- ・ 登校の際に各紙の一面を見比べて、世論で一番大きな話題をすぐに把握できるようになった。



靴箱の目の前に設置することで、教室に入る前に確認する生徒や移動教室の途中で立ち寄る生徒も多い。

(2) コラムの書写

週末課題として南日本新聞の「南風録」の書写と感想を書かせる取組を今年度も継続した。

- ・ 慣用表現や新しい語彙に触れることで、表現が豊かになった。
- ・ 自分の考えに新しい視点や価値観を取り入れたり、視野を広げたりすることができた。
- ・ 時事的な話題に触れ、世間に対する興味や関心を喚起することができた。
- ・ ディベートやグループディスカッションの授業で、話題や根拠として、得た情報や知識を活用することができた。

私はヘルメットをかぶれています。でも、高校生や中学生を休日見かける時には、ヘルメットをかぶっていない人がいました。実際にけがをしている人がいるのにヘルメットをかぶらないのはびっくりしました。私はこれからも事故に気を付けて乗りたいと思います。 **【自分の行動の振り返り】**

普段から自転車に乗るときには、私たち小中学生はヘルメットをかぶりますが、大人がヘルメットをかぶっているところはあまり見たことがありません。もし事故が起きたとき、命は一つしかないのです、自分たちで守っていかなければなりません。もしものときに備えて、大人もヘルメットをかぶった方がいいと思います。 **【問題提起】**

私はいつも自転車に乗って遊びなどに行きます。最初はヘルメットをかぶらないといけなのだと、少し面倒くさがっていたけれど、自分の命は、自分で守るということを知って、ヘルメットをかぶる意識が少し高くなった気がします。 **【意識の向上】**

自転車に乗った人が一年間でどのくらい死傷したかや、ヘルメットの着用率が一割を切っていたことに驚きました。自分は自転車に乗りますが、妹は乗っているので、ヘルメットの大切さを伝えようと思います。 **【家族への啓発】**

週末課題として出される南風録の書写。
資料は 2023.4.18 の南風録で「自転車のプロチームが取り組む交通安全活動」を取り上げたもの。
GW 前に生徒の事故防止の啓発として課した。



私は、自転車に乗るときには必ずヘルメットをかぶっています。かぶっていないと事故にあったというニュースを何回も見ても怖くなりました。私はこんな事故がなくなしてほしいです。地道な活動をしてでも、人の命を守るということをする人にあこがれて、私もそうなりたいと思いました。 **【倫理観の醸成】**

ヘルメットをかぶるのは当たり前で大切だけれど、ヘルメットに頼る前にまず、自転車に乗っているときの注意などから自分で心がけていくことが大切だと思う。 **【視点を変える・広げる】**

(3) 新聞社への投稿

ア 南日本新聞の「若い目」に生徒の作品を投稿する。

- ・ 定期的に投稿することで、部活動面だけでなく文化的な活動としての話題になった。
- ・ 掲載された生徒やその内容に触発された生徒を中心に、表現力を向上させようと努力する姿が見られた。
- ・ 作文に関する授業や取組に生徒が前向きになってきた。



イ あまみ子ども読書・新聞応援プロジェクトへの作品の提供

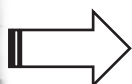
地元紙の「奄美新聞」と「南海日日新聞」に、生徒の作品を二つずつ提供する。

(4) 「よむのび教室」の活用

一年生を対象に、「よむのび教室」を実施し、新聞の読み方や構成の工夫などを学んだ。新聞に触れる機会の少ない生徒が増えている中、新聞の有用性を生徒に理解してもらうことを目的として、南日本新聞社の読者センター長・原田茂樹氏にお話をうかがった。



よむのび教室で学ぶ



学習発表会の壁新聞づくりで
生かす

4 活動の成果

- (1) 3年生は進路に向けた準備の一環で、時事問題を確認しに来る姿が見られた。
- (2) 地方紙と全国紙の一面を比較し、どの新聞がどのような視点で記事を書いているか、どのような違いがあるかなどに気付くことができ、自分の考えを深めたり広げたりすることができた。
- (3) 新聞を読むことで、自分も作文を投稿したいという意欲をもつ生徒が増えてきた。
- (4) 新聞から得た時事的な話題に関する知識を生かし、道徳や国語等の授業で発言したり感想を書いたりする生徒が増えてきた。
- (5) 国際情勢の変化や政策に関する情報など、自分を取り巻く環境や社会に関心を示し、将来や社会に対して自分の考えをもつようになってきた。

5 課題及び反省点

- (1) 新聞は授業で取り扱うときや活動等の特別な機会に読むのではなく、日常的に読むという感覚を養わせたい。そのためには、新聞が手に取れる場所にいつもあることが重要である。その拠点として、図書室と協力して、新聞に関する情報発信を強化する。
- (2) 学びの深化や教科横断的な学習のためにも、他教科でも新聞を取り入れた方が良い。

6 次年度に向けて

- (1) 新入生への年度当初の周知を継続し、新聞が身近なものであるという感覚を養う。
- (2) 有用な情報源として、新聞記事をより積極的に授業に取り入れる。
- (3) 「よむのび教室」を継続して実施し、新聞の有用性に気付かせる。
- (4) 次年度への反省を各学年にフィードバックし、新年度始動前に計画を周知する。

1. はじめに

本校は、中高一貫校である。令和２年度よりN I E 実践校となっており、今年度が最後となる。実践校に認定された当初から、普通科キャリアアップコースにおける取り組みについて実践を継続している。

今年度は、懸案であったNIE コーナーを図書室内に設置することができ、今後もNIE 活動を継続していくための環境作りができた。

2. 令和５年度 実践項目

- ① 1 日 1 記事（ワークシートの活用）
- ② 英字新聞の掲示
- ③ 総合的な学習の時間における回し読み新聞の作成

3. 実践事例

① 1 日 1 記事（ワークシートの活用）

〔実践期間〕 通年

〔対象〕 高校１年～３年 普通科キャリアアップコース

〔実践内容〕

普通科キャリアアップコースにおいて、１・２年生は「南風録」の書き写し及び読後感想の記述を行ない、３年生は記事を選択し要約と自身の考えを記述する活動を行なった。いずれも、登校後から朝のSHRが始まるまで集中して行なう。また、それまでに書き切れない場合は、放課後までに休憩時間等を利用して書き終わることを目標としている。

〔成果〕

高校１・２年生については、字をきれいに書くことと、自分の意見をしっかりと表現できるようになる力をつけることを目的として行なった。実施当初はなかなか自分の意見をまとめることができず、二・三行しか書けない生徒もいたが、段階的に目標設定をして、今では自分の意見を設定欄のなかでまとめることができるようになってきた。目的外の成果としては、記事中には生徒が知らないことも多く、生徒の知識を増やし深めていくことができ、物事をいろんな角度からとらえる力もついてきた。

3年生については、特に地域課題につながる記事を選択した。当初は記事のポイントがうまく要約できなかったが、繰り返すうちに要領を得た要約ができるようになった。加えて文章を読むスピードをアップしながら、内容を正確に捉える力をつけることができた。また、新聞でテーマを絞った記事を読み込むことで、推薦入試での小論文や面接試験に対応することができた。このことから、3年間継続することの大切さを感じた。



②英字新聞の掲示

[実践期間] 通年

[対象] 高校1年～3年 文理科

[実践内容]

日々の英字新聞の見出しをホワイトボードに掲示し、新聞記事は図書室内の NIE コーナーに設置。各自で見出しを英訳し、内容について自由に確認し合った。

[成果]

見出しにはさまざまな工夫がされており、授業では学習できないような表現に触れることができる。日々の出来事について、興味を持つきっかけとなり、文法にこだわらない表現の仕方に直接触れる機会とした。新聞を読むことで「生きた英語」を体験することができた。



図書室内の NIE コーナー

③総合的な学習の時間における回し読み新聞の作成

〔実践期間〕 通年

〔対象〕 高校2年 普通科みらい探究コース

〔実践内容〕

普通科では卒業後、進学する生徒、就職する生徒が同じ教室で学んでいる。どのような進路選択をするとしても社会的な事件や出来事に興味を持つことは重要な意味を持つ。高校2年生の、まだ自分自身の将来像を掴みきれない時期に、社会的な出来事などに触れることには大きな意味があると考え、高2の総合的な学習の時間を利用して、NIE活動を行なっている。

新聞をグループ全員で見て会話しながら紹介する記事を選び、回し読み新聞を作成した。部活動ごとに組んだグループは、それぞれが取り組んでいるスポーツに関する記事を紹介する新聞を作成した。

〔生徒の感想〕

- ・新聞を初めてちゃんと読んだ。いろいろな記事があっっておもしろかった。
- ・新聞は難しいと思っていたが、やはり難しかった。みんなで話しながら記事を選んだり、内容を考えたりする作業は意外と楽しかった。
- ・自分が取り組んでいるスポーツについて、みんなに知ってもらえるいい機会になった。今年国体があったり、(れいめいの)たくさんの部活動がインターハイに出場したり、スポーツが盛り上がったので、これからもがんばりたい。

〔成果〕

クラスに新聞を購読している家庭はほとんどなく、テレビを見る習慣もあまりないことから、情報源はもっぱらネットニュースである。新聞をきちんと読むことも初めてという生徒が多い中でしっかりとまとめられるか不安ではあったが、新聞の特性である一覧性から、日ごろ触れることのない記事にも興味がひかれて友人同士の会話も広がっていた。

グループの一部を部活動ごとに設定することで、自身が所属する部活動やスポーツについて知ってもらいたいという欲求が高まり、部活動へのモチベーションアップにもつながったという感想もあった。





4. おわりに

コロナの5類引き下げにともなって、学校行事をコロナ禍以前のような形で行なうことになったが、4年ぶりというブランクがあったために何をするにも必要以上に時間を要した1年間であった。そのため、NIE に関しても活動が断片的になったり、当初予定していた通りの活動が困難となったりした場面が多くあった。

今年度で実践校としては最後となったが、ようやく校内に NIE コーナーを設置することもでき、教員間でも新聞を使った授業に対して前向きに取り組む環境ができてきたところである。新聞を読むことで得られるのは知識だけでなく、知的好奇心を育む効果も感じられた。ほとんどの情報をスマホやネットで得ることが習慣となっている世代であるからこそ、紙媒体に触れることで身につく力があることを実感して欲しい。そのためには継続することが大切だと実感している。

今後、実践校を外れることにはなるが、NIE コーナーをより充実させ、中学校・高校ともに新聞に親しむ環境作りを継続させていきたい。目標は、生徒が自主的に新聞を読む習慣を身につけることである。

令和 5 年度NIE実践報告

鹿児島県立錦江湾高等学校

1 目標

SNS等の発達により手軽に情報が発信され受信できる今、改めて情報の収集、分析及び文章化する技術の結晶である新聞に触れることで、リテラシー能力を育てるとともに、時事に目を向けて社会と自己との関連を見出させる。また、新聞の情報をさらに発展させ、自分自身で調べ、まとめるという行為を通して視野を広げさせるとともに、課題の発見・解決といった探求能力を育成する。さらには、クラスでの発表を行わせることにより、情報を客観的かつ広く伝える技術を育成する。

2 実践内容

(1) 1 学年でのスーパーサイエンスハイスクール学校特設科目「ロジックプログラムⅠ」における活用

本校は、第Ⅳ期スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定校であり、理数科及び普通科の全生徒が探究活動を行っている。特に普通科ではサイエンスに囚われずに、文系分野を含む多様な分野での探究活動が行われる。そのため、探究活動が始まる前の段階として、興味関心や視野を広げつつ信頼性の高い情報源に触れる契機と位置づけ、普通科のSSH学校特設科目「ロジックプログラムⅠ」内で新聞を使用した。

ア 自宅、図書館または校内の指定の場所に置かれている新聞記事の中から気になる記事を 1 つ選び、切りとったものをワークシートに貼り付けてまとめた。



図1 新聞記事を選ぶ様子

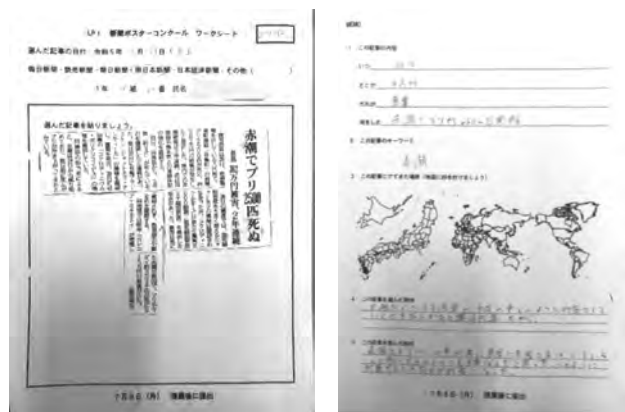


図2 ワークシート

イ 4 人組の班を作り、各自持参したワークシートを回して読み、気になった新聞記事を班で 1 つ選んだ。



図 3 ワークシートのまわし読み



図 4 グーグルドキュメントで新聞ポスターの作成

ウ グーグルドキュメントを利用して新聞ポスターを作成した。タイトル，見出し，各自の名前を入れ，記事の内容について各自で調べ，まとめた。選んだ新聞記事もスキャンしてファイルに貼り付け，新聞形式のポスターを完成させた。

エ 完成した新聞ポスターを投影しながら，各班 5 分程度クラス内でプレゼン発表した。発表は班員全員で行い，クラスの生徒による相互評価と，担任副担など複数の教員による評価も行い，1 位を決定した。

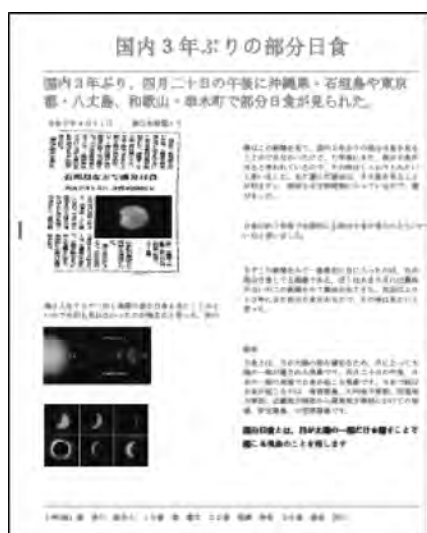


図 5 出来上がった新聞ポスター

(1)の成果と課題

- ア 探究活動の導入という位置づけで自由に興味のあるテーマを選び、自分たちで関連情報を集める経験が出来た。
- イ グーグルドキュメントを用いることで、班員が同時に新聞ポスターの編集ができたが、タブレットの使い方に慣れていない生徒が多く、作成に時間がかかった。また、視覚に訴える紙面作りに課題が残った。
- ウ 新聞記事を貼るスペースが小さくても、ICT機器を利用して紙面を拡大して説明することで見やすい発表になった。

(2)「読解力トレーニング NIE の日」の実施

- ア 週一回、朝のショートホームルーム前の15分間で実施した。
- イ 今年度は「Wednesday NIE」として、プリントを作成した。
- ウ 全校生徒に新聞記事を与えて読ませ、気になった記述やキーワードに線を引かせた。
- エ ワークシートに取り組ませた。



図6 新聞記事面



図7 感想等記入面

(2)の成果と課題

- ア 新聞記事を貼り付けるとき、できるだけ文字の大きさを変えずに貼り付けることを考えた。実際の新聞も活字を大きくしたりしているため、そのままの記事を読んでもらうように心がけた。
- イ 文字の大きさを優先したため、A4用紙に収まる記事を探すことに苦慮した。実施当日の新聞記事となると作業が繁雑になるため、事前に関心の

ありそうな記事をまとめておくようにした。

ウ 記事の内容はどれも生徒に考えさせるにはいいものばかりであるが、ただ読ませるだけでは生徒による捉え方に不安もあるため、教師からの説明が不要なものに限ることになったことが残念であった。

エ 読ませたい記事が多いが、時間が限られているため作成したプリントが蓄積されていくことがもったいないと感じた。

(3)卒業考査後の3年生への課題としての利用

ア 今年度は、自宅学習に入る前の3年生への課題のひとつとして、NIE の活用が決まった。

イ 比較的時間があるため、B4 サイズでの記事を探し、作成する。

ウ 多くを求めすぎることせず、読むことに重点を置く。



図8 B4 サイズに切り取られた記事

まとめ

新聞を毎日見ていると、身の回りには様々な問題が存在していることに気づかされる。そして、「見出し」の大切さにも気づくことになった。資料作成において、用紙に入りきらないため、見出しを切り取って貼り付けたこともあった。しかし、文章だけでは感じてほしいことがぼやけてしまう。見出しで引きつけて、内容を読み深めていくことが大事なのもかもしれない。年度後半は資料作成に重点が移ってしまい、読むことを後回しにしてしまうことも多くなったので、初心に返り、新聞を上手く活用していくことを心がけたい。新聞は面白い。

令和5年度N I E年間実践報告書

鹿児島県立野田女子高等学校

教諭 西 薫 義和

1 目標

現代社会における様々な情報を新聞を通して得ることで、政治や経済、地域の様子や世界情勢などを知る。また、現代社会における様々な情報を主体的・客観的に読み取る力を身に付け、正しい情報を選択し、正しい行動ができる態度を身に付ける。

2 生徒の実態

各学年3クラス(3学科)の女子の生徒である。自宅で新聞を購読している生徒はほとんどいない。そのためニュース等はインターネットから情報を得ているようであるが、政治や経済なども含めた時事問題にはほとんど関心のない生徒が多いように思われる。図書室にある新聞を閲覧する生徒も少ない。しかし、教師側がニュースや新聞記事を紹介するといろいろと発言したりする生徒もあり、ニュースや記事によっては関心を示す。

3 実践報告

(1)「コラムを読もう」の取り組み

本校では、平成28年度より、生徒の時事問題への興味関心を持たせるためや、読解力や理解力の向上のために、2～3週間に1回程度SHRを利用してコラムの時間を設定している。コラムの内容は進路指導部と3学年の職員が精選し、また、生徒がコラムの内容を理解しやすいように質問を設定し、文章の要約や自分の考えをまとめる活動を行う。他者の意見も知るために、数名の生徒の感想等も紹介する。下記は今年度取り上げたコラムの題名と質問に対する生徒の感想である。

(コラムの題材例)

題名	引用
ロシアのウクライナ侵攻について	南風録(南日本新聞 R5. 5. 25)
紙おむつリサイクル	朝日新聞記事より(朝日新聞 R5. 9. 15)
食べ物と子どもの心	論点(一部抜粋)(南日本新聞 R5. 11. 27)

(質問と生徒の感想等)(コラム題：食べ物と子どもの心)

質問：このコラムを読んで思ったことを考えたことを記入しなさい。

生徒感想：

- ・栄養などを考えた食事でも大事だが、家族みんなで食べる食事でも大切だと思った(1年)
- ・食べ物の大切さなどの食育に触れることで、食や食卓が思い出になることを知ることができ、毎日の料理に感謝しようと思った(2年)。
- ・お金がなくて、食べられるものが限られていても、その中で幸せや喜びを与え教えてくれる父母には感謝し、自分もそのような大人になればいいと思った。(2年)

（２）授業等における新聞の活用

本年度は各教科に新聞を活用した授業の取り組みをしていただくよう年度当初にお願いし、新聞を活用しどのような授業の取り組みができたか、報告して頂いた。

①国語

南日本新聞のコラム「南風録」で、国語の基本的な学習させた。コラムはニュースや時節の話題、時事問題など多方面から書かれているので、コラムを読むだけでさまざまな情報を得ることができる。また、漢字や言葉の使い方、文章の構成力などが身につく、作文や小論文の書き方や要点のまとめ方など、幅広く国語の学習に利用できると思う。南日本新聞社の発行している「南風録スクラップ帳」等も活用し、これからもコラムの活用は継続していきたいと思う。

②地歴公民

授業の最初に、当日の新聞記事(主に1面)を紹介し、記事を読み、生徒が記事の内容を理解できたか、記事に対する質問やわからない言葉、理解できない内容などを発表してもらい、説明をした。また、「新聞を読もうコンクール」へ原稿作成のための時間を設け、事前に記入方法等を説明した。その他、生徒が興味のある新聞記事の取り上げ、インターネットにはどのような説明で書かれてあるかを調べさせ、いろんな角度からさまざまな記事を読み取る学習を行った。

③数学

就職試験への一般常識の学習として、パーセントを使った計算の学習に「賃上げ3%台、減税縮小」という記事を用いて授業を行った。税金の計算、賃上げ・控除額など働き出してから使うような言葉が新聞記事に書かれてあったので、まずは知らない言葉の意味をタブレットで調べさせ、その後、○%上がったときの給料の計算やボーナスがいくらになるかの計算など、生徒が興味を持ちやすいお金の計算を新聞記事を参考に取り組ませた。

④英語

「なぜ対立？パレスチナ問題」の記事を参考に、教科書の「パレスチナ難民キャンプに暮らす少年の物語」を学習した。教科書の内容に入る前に、生徒はパレスチナ問題についてほぼ知らなかったため、新聞記事でパレスチナ問題がなぜ起きているのか、パレスチナ問題とは何かを学習した。そのため、教科書に書いていない背景などを生徒は知ることができたので、教科書の英文で書かれてある内容の理解度も上がったと思う。今回は、授業の内容に合った新聞記事をすぐに見つけることができたので、新聞を利用して授業を行えたが、いつもは授業の内容に合う新聞記事を探し出せず、新聞記事を授業で利用することは少ない。パソコンの検索機能で探しても欲しい記事が見つからないことが多いので、できる限り気になる新聞記事は切り取って保管をするが、授業で使う場面は少ないと思う。

⑤生活産業情報(食物科)

情報機器や情報通信ネットワーク及び各種アプリケーションソフトウェアの利用により、収集、処理、分析、発信を通して情報コンテンツの作成を扱う授業である。今回は冬季休業中の課題として、新聞を利用して、情報ネットワークを取り扱った内容、食に関して取り扱った内容、2023年で自分が一番心に残ったニュースをピックアップさせ、内容をまとめ、自分の感想や意見を述べさせた。また、情報を整理させるだけでなく、今後、上記でまとめた記事を利用した新聞を作成させる予定である。自分の得た情報を、アプリケーションソフト(今回は日本語ワードプロセッサの予定)を用い、相手にわかりやすく伝える力を身に付けさせたい。そのために、新聞を読み、一つの出来事をどう表現しているか、新聞から学んでほしいと思う。

⑥家庭基礎

「オリジナル新聞を作ろう」という名目で、今まで学習した家庭科の授業を振り返り、自分の生活と社会との関わりについて考え、気になる新聞記事を探してまとめる学習を行った。一連の学習は、記事を探したり、意見をまとめたりする作業は夏休みの課題として生徒に指示し、2学期の授業で画用紙にまとめ、クラス内で発表することとした。また、発表した後は、生徒同士で評価シートを用いて評価を行った。また、自分の選んだ記事の内容がSDGsの目標17のどれに当てはまるかについても考えてさせた。

授業を実施しての感想は、高校生は新聞をじっくりと読む機会がなかなか無いという意見が多く、今回の授業を通してさまざまなニュースに目を通し、社会の出来事を自分の事として捉える良い機会になったと感じた。また、お互いに発表することで、自分とは異なる視点の意見を知ることができ、考えを深めることができた。今回は文化祭で展示することを考え、画用紙でまとめたが、タブレットを用いたまとめや発表を今後は検討していきたい。なお、SDGsの目標17のどれに当てはまるかを考えさせたが、私たちだけでは解決できないことを、今後どのように解決できるかまで生徒が考察できるように学習させたい。



⑦保健

性教育の授業に「梅毒患者 5,453 人に 過去最多の昨年超すペース」(朝日 R5.5.31)の記事を使用した。性感染症の一つである梅毒は過去最多ペースで増加していることを新聞記事から読み取り、感染が増えている要因や梅毒を含む感染症のリスクなどを学習し、自他を大切にすることを学習した。

⑧小児看護(衛生看護科)

授業の導入の一つとして、少子化に関する新聞記事を 6 つほどタブレットを通して共有し、その中で生徒自身が最も気になった記事を選択し、選んだ理由やその記事に対する自分の考えをまとめさせた。その意見をタブレットで共有し、他者の意見や見方を知り、グループで意見交換した。

⑨衛生看護科専攻科

主に精神看護学・災害看護学・国際看護学でそれぞれの学習内容に関係する記事を使用した。最近では、能登半島地震の記事を災害看護学で使用し、実際の災害現場において、どのような支援等がなされているのか、記事から実際を知ること、看護と結び付けて考えるきっかけとなった。

4. まとめ

NIE 実践指定校 2 年目として、昨年よりも生徒が新聞に触れる機会を設けるため、各教科で取り組める新聞活用実践を行った。どの教科も、新聞記事をどう使えばいいのか、いろいろ苦戦しながら授業をされたが、やはり、一番簡単に行えることは授業の最初に本時の授業の内容に興味や関心を引かせるため、新聞記事を紹介するのが一番活用しやすいとの意見が多かった。また、生徒が新聞記事を使って自分の新聞を作る学習に関しては、新聞記事から得られた事実をもとに自分の将来を設計するようなまとめ方をした生徒もあり、キャリア教育の学習の一つにもなり得るのではとの意見もあった。そして、記事から SDGs との関わりについても考えさせたが、これからの持続可能な社会を作り上げていくために、どのような関わりが自分にはできるのかを考察するために、その資料として、新聞を最初のツールとして取り扱って欲しいとの意見もあった。

現在、授業へのタブレット導入が徐々に進みつつある。新聞とは違い、さまざまな情報を知るツールとしても今後活用が進むと思うが、新聞にある一覧性という点から見ると、まだまだタブレットは追いついていないと感じる。新聞は、自分が知りたいニュース・記事以外にも、その一面にさまざまな記事が掲載されているので、今まで興味や関心の無かった記事も見られ、新たに興味や関心を抱くことが、新聞を見ることで経験できると思う。これからも、新聞のこのような点も生徒に教えながら、生徒が少しでも、政治や経済、地域の出来事、世界の情勢等に関心が持てるように、新聞を活用していきたい。

令和5年度 NIE 実践報告

鹿児島県立大島高等学校

1 はじめに

本校は、令和5年度に創立122周年を迎えた伝統校で、奄美群島内を始め、県本土や東京など、全国から集まった生徒達が在学している。大多数の生徒が、大学への進学を目標としており、学業や部活動に勤しむ傍ら、探究成果の発表や、ビブリオバトルなどの各種コンクールに積極的に参加している。一方で、日頃の授業や総合的な探究の時間の活動において、生徒が情報を収集する手段は、図書館の他はスマートフォンやタブレットに偏りがちであり、今年度はまず新聞紙面に慣れるというところからスタートしている。

2 今年度の実践内容

(1) 「朝の一読」での活用と、その後の授業実践

(資料1)

これまで現3学年に対し、「朝の一読」と称して1年次に147回、2年次に152回、3年次111回(共通テストまで)授業日に新聞記事を全員に配布し、読んだうえで200字の要約や感想を書くか、教科の学習内容に近い記事については問を与えて答えさせるという実践を行ってきた。

採用紙面は、学校で購読している『南海日日新聞』『奄美新聞』『南日本新聞』『朝日新聞』『読売新聞』『毎日新聞』に加えて、『日本経済新聞』『AsahiWeekly』『朝日新聞デジタル』『日本経済新聞デジタル』であり、記事を切り抜く形で生徒に提示した。「朝の一読」で取り上げた記事については、主として、地歴公民科の授業や考查で使用したり、総合的な探究の時間に、配布した新聞記事を契機に関連記事を収集させたり、小論文指導の際に改めて読み返しをさせるなどの活用を行った。

(資料1)は、今年度の3学年1学期「倫理」期末考查における「朝の一読」からの出題例である。記事は、2023年5月21日付『朝日新聞』朝刊3頁「(日曜に想う)承認欲求、アダム=スミスの戒め」を使用させていただいた。その他にも、同じく「倫理」の2学期中間考查において2020年9月8日付『日本経済新聞デジタル』の「パクスなき世界3 自由を守るための不自由 再生迫られる民主主義」を、2学期期末考查では2022年12月5日



付『朝日新聞』朝刊 32 頁「中村哲さんの志 知らなかった私が」の記事と、時事問題や「正義」に関する思想を関連づけて出題した。

1 年次から継続してきたため、生徒によっては自分の関心や探究テーマに沿った記事を丁寧にファイリングして活用してくれるなど、一定の効果はあったと実感している。しかし、ここまでの反省点として、どうしても教員主導で、すべての生徒の自主性に結びつけられているとは言えないため、「慣れる」に終始してしまい、生徒が自主的に情報ツールとして継続した新聞の読みこみや活用をするに至っていないということがあった。

そこで、今年度行われた 2 年生の公民科や国語科における活用事例の中から、「論理国語」における「書くこと」の授業実践を以下に挙げる。

「論理国語」においては、中渡瀬教諭による「自立した書き手」の育成を目指した授業が実践された。実践の事前準備として、「朝の一読」と連携したアイデアノート（「朝の一読」ファイル）の作成が指示され、自分の意見を書き込むメモ欄に意見を書きとめ、それを綴ったファイルを授業ではアイデアノートとして参照させている。また、このアイデアノートは週末課題でも活用されており、ファイリングした記事から一つ選び、自分が書き留めた意見を参考に短い意見文を書く課題を課すことで、生徒が意見文を書くサイクルを繰り返すことができるように配慮されている。そのうえで、関連する単元を設定し、（表 1）の授業実践が行われた。

表 1（授業実践の単元） ※NIE と関連する箇所を抜粋

単元名	多様な読み手を意識した文章を書き、文章の構成や展開について理解を深めよう 「―社会とつながる私の意見―」
指導内容	<u>STEP1（題材の設定、情報収集、内容の検討）</u> *「朝の一読」活用 ○単元の目標や授業の流れ、今回のパフォーマンス課題「新聞へ投稿するための意見文を書こう」について理解する。 ○生徒の記述を取り上げて、「感想」を「意見」へと変換する。 ○「何について書くか」（書く題材）を検討する。 ○「世界の見方を変える」（宇野常寛）の読み取り。 ○読み取りを踏まえ、“問い”を意識して「書く」内容を深める。 ○自分の書きたい題材に関する情報を収集し、「書く」内容を検討する。 <u>STEP2（構成の検討、考えの形成、記述）</u> <u>STEP3（推敲、共有）</u>
言語活動	自ら設定したテーマについて、様々な資料を活用することで考えを深め、新聞へ投稿するための意見文を書く。

使用教材	「世界の見方を変える」宇野常寛（桐原書店） 『生き抜くためのメディア読解』小林真大（笠間書院）
実践の 効果	高等学校と大学の文章指導の接続を念頭に、「自立した書き手」の育成を意識した取組みを授業の中に取り入れることの効果と、生徒の変容について省察した。今回の取組みは、「書くプロセス」の定着や、「文章の問題点に気づく力」、「文章の課題を修正できる力」につながり、書くことが「できる」ようになったと感じる生徒を増やす結果になったという点で、一定の効果を得られたといえる。

以上の実践では、最終的に生徒による新聞投稿を行い、投稿したものが実際に紙面に掲載された。「論理国語」における以上のような実践が継続されることで、新聞を教育の中で活用するに止まらず、生涯にわたって自身の置かれた状況を理解する場面で活用し、意見を他者に伝えることのできる自立した人格を形成することに役立たせることができていると感じている。

（２） その他

新聞コンクールへの１・２学年全員と３学年希望者の出品を実施した。今年度は、学校奨励賞と個人奨励賞を頂いた。また、地元紙などに掲載された本校生徒の記事を各クラスに配布して掲示する取組を行い、さらに、職員室や、総合的な探究の部屋、図書館において、切り抜き用の新聞を常時配置した。

３ まとめ

今年度、NIE実践校としての初年度を経て、もっとできることがあったのではないかと反省することの方が多かった。今後は、授業実践をさらに多くの教員と共有し、「朝の一読」も生徒が記事を選んで生徒達で共有することができないかと案を練っているところである。

来年度は、生徒が自主的に新聞の活用に励み、社会への興味関心を互いに喚起し合う環境の整備に努めていきたい。

鹿児島県立鹿児島聾学校

本校は鹿児島市下伊敷に所在する、県内唯一の聴覚障害教育を専門とする特別支援学校である。今年度は幼稚部 11 人、小学部 13 人、中学部 8 人、高等部 4 人の計 36 人が在籍している。また、0 歳児からを対象とする乳幼児教育相談やきこえの相談、通級指導教室など聴覚障害教育に関するセンター的機能も担っており、遠隔地に自宅のある幼児児童生徒のために寄宿舎も備えている。

– 50 –

エ 「参観シート」の記述と反省等から
授業提供者は「ふりかえりシート」を
記入し学部内で共有。

A

ふりかえりシート

～授業提供者が記入～

気が付いたこと、課題点

- ① 言語力に課題のある生徒に対して、実際に与わせながら新聞記事を用いることで、「社会事象の自分事化」などの思考力を鍛えられる学習課題を設定できると感じた。
- ② 生徒がスムーズに学習課題に取り組むための準備（量・タイミング等）の有効性が確認できた。



改善点

① 今回の対象以上に言語力に課題のある生徒に対して新聞を用いた学習活動を行う際には、①事前の理解リサーチなどの丁寧な準備段階、②分かりやすい学習課題の設定とその解説として求める内容を絞る、③ヒートマップ等のタイミング調整によって、思考力を鍛えられる学習課題とすることができるのではないだろうか。

力 各学部の実践例等を全体へ報告し共有（研修のまとめ）。

(2) 小学部の取組例 (小学部全体) 「新聞の時間」(前年度よりバージョンアップ)

① 学習の概要

新聞を用いた言語力や思考力の向上をねらいとする活動。児童の実態毎に3グループに分け、月に一度「新聞の時間」として設定。新聞記事からの出題に答えたり、新聞を読んで考えたことなどを発表したりすることに取り組んだ。

② 学習内容

グループ1: スポーツや動物など特定テーマの写真を新聞から探して切り取り、大きな紙に貼りまとめる。

グループ2: 日記を元に記事を作成したり、ランキング記事を考えたりして新聞を制作する。新聞を読んで関連する工作をしたり、考えを発表したりする。

グループ3: 小分け(100字程度)に提示した新聞記事を読む。

新聞記事に関する質問に答える。

新聞記事を読んで考えたことを友達と話す。

新聞記事に関連する話題について、タブレットで調べ学習をする。

グループ2の学習の様子



こども新聞の制作問題に取り組んだ。



制作した作品を応募したところ、こども新聞に掲載された。



(3) 中学部の取組例 (中学部全体) 「コラム記事等の活用」

① 学習の概要

新聞のコラム記事等を用いながら、言語力や思考力の向上をねらいとした活動を設定した。生徒の実態に応じて、週末課題などとして、記事の視写や語句の意味調べ、内容に関連した設問を通した理解度の確認などの学習に取り組んでいる。

② 学習内容

4月～ 実態把握 (CRT 実施), コラム記事の視写, 読解 (クイズ), 語句調べ

9月～ コラム記事の読解, 指定語句調べ, 語句を用いた短文作り

11月～ コラム記事の選出語句調べ, 語句を用いた短文作り

1月～ コラム記事への意見まとめ, 自分の経験の

記事作成, 自分新聞作成, 新聞投稿

南風録の視写課題の例

一部を見落として視写してしまうことがあったが、内容は理解している。



読解課題の例

簡単なクイズなどで新聞や郷土への興味喚起を図った。



(4) 高等部の取組例

学習の概要

① 新聞記事を用いた朝自習（高等部全体）

高等部には毎日朝自習の時間が設定されており、週に1回、新聞記事を元に担当者が作成した課題に取り組んでいる。生徒の読解力や語彙力を考慮した2～3種類の課題を毎回準備し、朝自習後にある国語の授業で解説と訂正を行っている。毎回、解答状況を課題作成者と国語科担当者間で共有し、課題作成と国語の指導にフィードバックする体制が取られている。

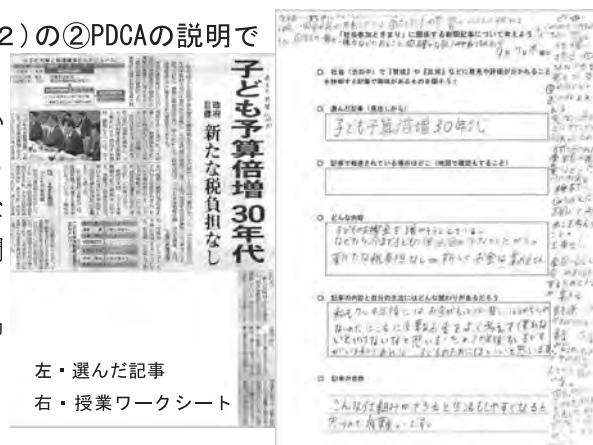


新聞を読み、興味をもった記事を選び感想等を書く課題

記事を読み、問題に答える課題

② 新聞記事を用いた授業（2の(2)の②PDCAの説明で示した授業例の実際）

社会科の社会参加と選挙についての授業。選挙や選挙権に関する説明後、選挙で争点となるような意見や評価が分かれる内容の新聞記事で、興味があるものを探し、自身との関わりを文章化する学習に取り組んだ。



左・選んだ記事

右・授業ワークシート

(5) 寄宿舎の取組例

取組の概要

新聞やニュースへの関心を高め生活との関係を意識することと、安全な情報取得ができるようになることを目指し、発達の段階に応じた学習会形式で取り組んだ。

- ※ 本校寄宿舎には幼稚園
- 1年生(3歳)～高等部
- 3年生(18歳)まで在籍

- 左・学習会で作成した推しのニュース
- 左・最近の大きなニュースの掲示、
- 寄宿舎の避難訓練にも活用



4 まとめ

これまでの授業実践等で、新聞が本来的にもっている読解力や語彙力・表現力の向上、知識を広めるために新聞を活用することの有効性が各学部等で確認できたものとする。学部等によっては、学習内容や寄宿舎生活と実社会の繋がり、把握、社会問題などに当事者意識をもち社会参画の視点を養う取組へも活用できた。これらは幼児児童生徒の語彙力等の実態に応じて、新聞教材を個別最適化してきたことで可能となった。実践4年目を迎える来年度は、NIE実践指定校としての実践を一過性のものとし、継承を意識した取組とする必要があるだろう。

鹿児島県新聞活用教育（N I E）推進協議会会則

1995（平成7）年 4月実施
1998（平成10）年 5月改定
2004（平成16）年 5月改定
2016（平成28）年 5月改定

- 第1条（名称）** 本会は鹿児島県新聞活用教育（N I E＝Newspaper In Education 教育に新聞を）推進協議会と称する。（略称・鹿児島県N I E推進協議会）
- 第2条（目的）** 本会は教育界と新聞界が協力、新聞を生きた教材として活用するための研究と実践を通して、教育内容を豊かにするとともに情報化社会における情報活用能力を高め、幅広い人間形成に役立たせることを目的とする。
- 第3条（事業）** 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- ①N I E実践研究会委嘱校、委嘱者の選定
 - ②N I E実践研究委嘱校、委嘱者への研究補助
 - ③N I Eに関する研究会等の開催および研究成果の紹介や普及
 - ④その他、本会の目的達成上、必要と認めた事項
- 第4条第1項（組織）** 本会は次に掲げる委員で構成する。
- ①鹿児島県内の学識経験者
 - ②鹿児島県の教育委員会関係者
 - ③市町村教委、校長会、私学団体
 - ④実践校代表
 - ⑤在鹿の日本新聞協会加盟者代表（朝日、毎日、読売、西日本、日経、南日本、南海日日、共同通信、時事通信）
- 第2項（任期）** 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第6条（役員）** ①本会には会長1名、副会長3名、監事2名を置く。
- ②会長は協議会を代表し、会務を統括する。
 - ③副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときはその職務を代行する。
 - ④監事は会計監査を行う。
- 第7条（運営）第1項** 本会は次期計画その他運営に関する重要な事項を決定するため、毎年1回定期総会を開くほか、事業状況報告などのための臨時会を開催する。
- 第2項** 総会は会長が招集し、その議長となる。
- 第8条（経費）** 本会の運営に関する経費は、参加する新聞・通信社の拠出金および個人、団体等からの補助金その他の収入をあてる。
- 第9条（事務局）** 本会事務局は南日本新聞社読者センターに置く。
- 第10条（事業年度）** 本会の事業年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
- 第11条（補則）** この会則に定めるもののほか本会に必要な事項は別に定める。

※付則 この会則は2016（平成28）年4月から実施する。

発 行

(2024年2月20日)

鹿児島県N I E推進協議会

[事務局]

〒890-8603 鹿児島市与次郎1-9-33

南日本新聞社内

電 話 099 (813) 5168

F A X 099 (813) 5017

E-mail : nie-kago@373news.com

URL https://s1.373news.com/k_nie
